

精神科医療機関外来における過量服薬

-大阪府精神科病院実態調査より-



こころの健康総合センター事業推進課



本屋敷美奈

11154

目的 大阪府と救急医療機関が連携し自殺未遂者の支援等を行った事業において、既遂者の3割、未遂者の7割に精神科通院歴があることや生活保護者が多いこと、未遂の手段のうち、処方薬の過量服薬が最も多いことが判明したため、精神科医療機関において過量服薬の実態調査を行うことを目的とした。

方法 大阪府内の精神科病院協会に所属する3精神科病院及びそのうち2つの精神科病院と連携する2精神科診療所において平成26年7月に受診した患者を同年12月まで追跡し、過量服薬関連行動（A：過量服薬により救急医療機関等で処置を受けた旨の報告を、診療情報提供書又は電話等で受けた、B：向精神薬を乱用した旨の本人からの申告又はその他の者からの報告を受けた、C：医師にフライング処方を要求する行動があった）及び、各医療機関の過量服薬関連行動に対する対応を調べた。その上で患者の各因子に関して過量服薬関連行動に対するリスクの推定を試みた。

結果 平成27年7月には5079名の患者が医療機関を外来受診した。その後半年間に59人に過量服薬関連行動が報告され、発生率は年間2.32%であった。のべ回数は101回（A9回、B56回、C36回）であり、その内41回（41.6%）に対しては何らかの介入が行われていた。また、45名（A2名、B23名、C20名）は単発的な行動であり、2回みられた者が10名、3回以上の者が4名であった。また、過量服薬関連行動に対するオッズ比は女性2.60(95%信頼区間1.43-4.72)、40歳未満1.76(95%信頼区間1.01-3.08)、F3群1.87(95%信頼区間(1.00-3.49)、睡眠薬3剤以上が2.41(95%信頼区間1.18-4.89)と有意な結果であった。

表1 過量服薬関連行動あり群・なし群の背景

		なし(n=5020)	あり(n=59)	P値
機関	病院	3268 (65.1%)	38 (64.4%)	0.892
	診療所	1752 (34.9%)	21 (35.6%)	
性別	男性	2129 (42.4%)	15 (25.4%)	<0.01
	女性	2891 (57.6%)	44 (74.6%)	
年齢	<40	907 (18.1%)	24 (40.7%)	<0.01
	40-59	1776 (35.4%)	31 (52.5%)	
	≥60	2337 (46.6%)	4 (6.8%)	
診断	F0	852 (17.0%)	2 (5.1%)	<0.01
	F1	44 (0.9%)	2 (3.4%)	
	F2	1800 (35.9%)	18 (30.5%)	
	F3	1243 (24.8%)	25 (40.7%)	
	F4	753 (15.0%)	10 (17.0%)	
	F5	20 (0.4%)	1 (1.7%)	
	F6	25 (0.5%)	1 (1.7%)	
	F7	44 (0.9%)	0 (0.0%)	
	F8	38 (0.8%)	0 (0.0%)	
	F9	201 (4.0%)	0 (0.0%)	
保険	社会保険	963 (19.2%)	16 (27.1%)	<0.01
	国民健康保険	1899 (37.8%)	23 (39.0%)	
	生活保護	1083 (21.6%)	18 (30.5%)	
	後期高齢者	1057 (21.1%)	2 (3.4%)	
	その他	18 (0.3%)	0 (0.0%)	
処方	抗不安薬≥3剤	86 (1.8%)	4 (5.8%)	<0.05
	睡眠薬≥3剤	475 (9.6%)	14 (23.7%)	<0.01
	バルビツール	488 (9.8%)	8 (13.6%)	0.372

表2 過量服薬関連行動に対するオッズ比

		オッズ比【Crude】 (95%信頼区間)	オッズ比【Adjusted】 (95%信頼区間)
機関	病院	0.97 (0.57-1.66)	1.07 (0.62-1.86)
	診療所	ref	ref
性別	女性	2.16 (1.20-3.89)*	2.60 (1.43-4.72)*
	男性	ref	ref
年齢	<40	1.52 (0.88-2.60)	1.76 (1.01-3.08)*
	40-59	ref	ref
	≥60	0.09 (0.03-0.28)*	0.09 (0.02-0.37)*
診断	F2	ref	ref
	F3	1.46 (0.69-3.09)	1.87 (1.00-3.49)*
	F4	1.22 (0.57-2.63)	1.13 (0.50-2.53)
	その他	0.39 (0.15-1.04)	0.81 (0.29-2.26)
	保険	ref	ref
処方	社会保険	ref	ref
	国民健康保険	0.73 (0.38-1.39)	1.13 (0.58-2.20)
	生活保護	1.00 (0.51-1.98)	1.15 (0.57-2.35)
	後期高齢者	0.11 (0.26-0.50)*	1.74 (0.22-13.66)
	抗不安薬≥3剤	4.17 (1.48-11.77)*	2.00 (0.67-6.00)
処方	睡眠薬≥3剤	2.98 (1.62-5.46)*	2.41 (1.18-4.89)*
	バルビツール	1.46 (0.38-2.15)	0.88 (0.37-2.09)

結論 精神科医療機関での過量服薬関連行動は年約2.3%であった。女性、40歳未満、F3群、睡眠薬多剤処方といった特徴は大阪府における自殺未遂者連携支援事業¹⁾及び奥村ら²⁾の報告と合致するところがあった。こういった過量服薬関連行動は直接的な死因となることはまれであるが、中長期的には自殺の危険因子だといわれている。今後、異なる医療機関、精神科以外の医療機関でもその実態を明らかにしていくことが必要と思われる。

文献

1) 平成25年度自殺未遂者連携支援事業報告書

2) Okumura Y. et al. Exposure to psychotropic medications prior to overdose: a case-control study. *Psychopharmacology (Berl)*. 2015 Aug;232(16):3101-9.